

第 2 回定例教育委員会 会議録

開催月日 平成28年4月27日（水）

開催時間 午後 3 時 00 分から午後 4 時 15 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 守屋 守
教育長職務代理者 飯室 元邦
委員 長田 由布紀、和田 一枝、野田 清紀

出席職員 教育次長 宮沢 雅史
教育監 渡井 渡
教育監 小川 巖
学力向上対策監 井上 耕史
総務課長 小島 良一
福利給与課長 柏木 精一
学校施設課長 (代 総括課長補佐 本田 晴彦)
義務教育課長 青柳 達也
高校教育課長 手島 俊樹
社会教育課長 岩下 清彦
スポーツ健康課長 赤岡 重人
学術文化財課長 小澤 祐樹
新しい学校づくり推進室長 鈴木 昌樹
国体推進室長 (代 国体推進監 樋 紀宏)
企画調整主幹 成島 春仁
総務課総括課長補佐 草間 聖一
政策企画監(総務課課長補佐) 古澤 善彦
総務課課長補佐 篠原 孝男
総務課課長補佐 望月 明男
総務課副主幹 保垣 利恵
義務教育課人事管理監 中込 司
義務教育課主幹・管理主事 立川 博
高校教育課人事管理監 小川 弘一
学術文化財課文化財主事 佐藤 拓也

傍聴人 1 名

報道 1 名

会議要旨

〔 教育長開会宣言 〕

教育長から白川委員が都合により会議を欠席する旨の届け出があったとの報告があった。

1 議 案 な し

2 報告事項

(1) 第3回甲府城跡総合調査検討委員会について

〔説明〕学術文化財課

野田委員 天守閣の存在を見つけるまでやるのですか。

小澤課長 1年程度の期間を設定して調査してきましたが、今まで想定もできなかった関係ない大名関係からかなり出てきました。大名関係のところをかなり調査をさせていただけるといことになれば、今現時点でできる調査とすれば対象的にはほぼ網羅できるのかなというふうには考えております。

野田委員 結局、江戸後期のほうに出した絵図なんかでというと、無いわけでしょう。じゃあどこまでやるのかということなんですか。

教育長 今回は新たな絵図面が出てきて、江戸前期とか中期とかと比較ができて、これ1年ということで限られるわけではありませんので、来年もやるという必要があるかどうかというのは、事業を見ながら考えていく必要があるかなと思います。

野田委員 本当にあるのか。どっちかと言うとないような現状のほうが確率的には高いですけどね。

- 教 育 長 ただそれはないという証拠が出てきているわけではないので
- 野 田 委 員 立証は難しいけれどね。
- 教 育 長 調査をしても新しいものが出てこなくて、これ以上というような話しになれば別な
んでしょうけども、今のところ今回の調査ではいろいろなものが出てきているの
で、引き続きまだやっていくとどうも出そうだというものもありますので。そうい
うようなことで今年度の事業を見ながらまた来年どうするかということを検討して
いく必要があるとは思いますが。
- 和 田 委 員 今の説明を聞いて、時代背景が分かってきたりとか、平和な時代はどうだったのか
とか、家康になった時と豊臣の時というような、分かってとても勉強になりました
。天守閣が出てこなくても調査の中で出てきたものを公開してもらえると大変い
いのかなんていうふうに思いましたし、学校の歴史教育、歴史の授業なんかにも
こういうものを使って授業ができるのかなんて思いました。ぜひ出てきたものは
有効に活用するといいいのかなんていうふうに思います。
- 小 澤 課 長 調査の結果については、今までにも出てきた絵図とかございますのでその辺も活用
しながら、甲府城を活用しているいろいろな催しを行っています。中でもいろいろ
子どもたちにご説明等をさせていただきます。いろいろ出てきましたのでもっと
もっとそういったことを活用できるように検討していきたいと思えます。

【 了 知 】

3 その他報告

- (2) 平成29年度採用山梨県公立学校教員選考検査実施要項について
[説明] 義務教育課

- 野 田 委 員 前回私も初めて出させていただいて、その中で、もう何年か経過してある程度若手
の現場の先生をその面接官に登用したらどうだろうなという話が出たんですけど
も、その件についてはどうなんでしょうか。
- 青 柳 課 長 教員選考検査を受ける期間採用教員が学校に勤務しておりますので、公正を期すと
いうことで現場の方をすぐ入れるのはちょっと厳しいと思えます。
教育委員会事務局に勤務する指導主事等であれば、受けられます。
- 野 田 委 員 今、受けられるのですか。
- 青 柳 課 長 指導主事が入っているところもありますけども、本当に指導官とか、本当に一部足り
ないところを埋める形では入っています。
- 野 田 委 員 私らもまだまだ未熟なんですけども、そうは言っても現場のことやっていたり、指
導主任の先生なんかは、あっ、こういう先生は今粗削りだろうけれども、将来教師
として伸びるんだらうなという、そういういい面、僕らが見つからないいい部分
を見つけ出せるんじゃないかなと思うんですよね。そういう面でやっぱりそういう先
生を面接官に登用してもいいんじゃないかと思えます。
- 青 柳 課 長 ありがとうございます。指導主事であればある程度可能と思えますので、検討して
いきたいと思えます。
- 長 田 委 員 諮問委員についても検討の余地があるなということを感じているところでありま
す。適性検査について、まあこれまで途中で変えていったりとか、他県では適性検
査みたいなきことをしなくなっているところも出てきているふうなお話もあったん
ですが、今使われている適性検査の種類について、少なくとも昨年使われた適性検査の

種類について、実はそれより前に使っていたもののほうが様々な意味で人格を多面的に精査できるものが使われていたなあと考えてます。すごく簡易的になってきているので、ちょっとこの適性検査の内容についてももう少し検討していただけたらと思います。またそれがはっきりと結果になって出てきているものについては合否の時にはよくよく考えていただくという必要があるんだろうなと思っています。

青柳課長 適性検査については今年度も実施をする予定であります。それからあと合否に関しましては当然やっているものですから参考にはしております。種類につきましては昨年度変えた経緯がございますので、続ける中で検討していきたいと思っております。ただ前のMMPIは国からの指導が入った経緯もありまして、ちょっと使いにくい部分もあるかと思っております。

長田委員 それはどういう意味で使えないのですが。

青柳課長 性差別的な内容とか、神を信じますかとか、いろんな幾つかの例が挙がったんですが、そういった項目がよくないだろうということで指導が入りまして、我々もあれが一番細かく見れるものだろうというのは理解していたんですけども、昨年他県等の状況を見ましてもそちらのほうへめがけて行くという経緯がありまして、昨年とは違うものに変えさしていただきました。

長田委員 昨年度お使いになった適性検査の種類についてはそれほど悪いものではないんですが、非常に古い検査なんですね。以降、もっとずっと新しいその人の職場、働き方の時に精査できるものが出ていますので、そこは改めてご確認いただいたほうがいいかなというふうに思っています。非常に古い、歴史もあるから信頼性もあるんですけども、非常に古いタイプのものだと思っています。

飯室委員 面接の時に期間採用と新卒とばらばらでやりますよね。その部分、期間採用はやっぱりがんばっている先生いますよね。そういう先生はそういう先生だけで同じブロックで面接したらどうですかね。期間採用で、今現場で教えている先生。やっぱりあそこで結構がんばっている先生がちょっと若干試験とかになるとハンディキャップがあって、本当に授業ではしっかりやる先生は多分面接とか試験になると落ちるケースがありますよね。そういうふうに期間採用は期間採用グループを作って、その中で競い合って、その中で優秀な、校長先生とか何かから推薦があった優秀な人は若干考慮して、その指導の教員として採用するとか、そういう何か別枠にしたほうが分かりやすくてよろしいかなと思います。

青柳課長 現在はグループ分けの基本は機械的に行われております。あと集団討議が職種の関係がありますので、そこは同じになるべくするように。4教員なら4教員に、人が合わないもので。そういう形でやっています。

飯室委員 期間採用の先生は今現場にいるけどライセンス取れないことがある。そういう人たちが何か復活するような、そういうシステムを作ってやったほうがいいですね。なんでも点数で決めちゃうというのではなくて、プラスアルファで加えていくというね、そういうシステムがあると更にいい先生が採れると思うんですよね。頭だけの、面接だけの、足し算で採るより、期間採用がいたら30人は期間採用で30人やって、その中で競争させて、その中でベスト5か何かを採りましょうとか、そういう競争原理があったほうがいいと思います。

青柳課長 選考のほうは特別選考というのがございまして、ある程度優遇されている部分がありますが、面接順につきましてはまた検討をさせていただきたいと思っております。

【 了 知 】

(3) 甲府工業高等学校定時制の募集方法の変更について

[説明] 新しい学校づくり推進室

- 長田委員 退学者数が今多いというふうなお話がありました
- 鈴木室長 昨年入学した生徒は、まだ退学した生徒はおりません。ただ過去を見ますと5人ぐらいです。年によっても違いますけれども。
- 長田委員 今定員に満たない状態でスタートしているということですが、成績がふるわないために定員に満たなくても点数が足りない、成績が足りないので不合格になっているという志願者は居るのでしょうか。
- 鈴木室長 入学者数まで把握しておりますけど、志願者数に対してはちょっと今データがございませんので、後ほど調べてお答えします。
- 長田委員 これはほかの定時制の学校でも言えていることかなと思うんですけど、不登校傾向が続いていて全日制の高校に入学するのは難しいが、やりたいことはあるし、進学はしたいと。それで定時制に行く。それも私立とかに行く経済的余裕がないので、公立の高校に入りたい。それで定時制を志願するという子どもたちが少なからずいます。
その中で何とか受験まで自分の気分を持って行って受験志願をして、0点ではなかったけれども、不合格になってしまったとい生徒が少なからずいます。
この子たちはじゃあ一体どうするんだろうと考えると、かなりの確率で引きこもりに繋がっていくんですね。何とか受験までサポートされたりとかして、何とかして行って、定時制でもとにかく入っていく、通うということだったりとか、通信制でもそんなんですけどもやってみるということがあった時に、公立の定時制で不合格になった時のそのあとの支援は非常に難しい、困難を極めるんですね。
ということがあるので、今志願者数に対してどれだけ不合格になっている子どもがいるのかということ把握しておきたいなというふうに思います。
- 和田委員 本当に経済的に苦しくて働きながら学ばなきゃならないし、工業系に進みたいという子もいるかと思うんですが、学校訪問なんかをしているのでしょうか。
- 鈴木室長 その辺は学校のほうで中学に行ったりしてPRをしているようです。
- 和田委員 例えば卒業するとこういう企業の誘いが来るといようなことも話をされているのでしょうか。
- 鈴木室長 具体的なことは把握しておりませんが、年によって若干違いますけれども、就職も卒業生の、8割、9割は県内の企業へちゃんと就職しております。
- 和田委員 現在通っている生徒さんたちで働きながら学んでいるという割合はどのぐらいいらっしゃるのでしょうか。
- 鈴木室長 アルバイトをしている子ども多いようです。
- 野田委員 入学試験は数学ともう一つでいいような気がします。
- 長田委員 ただ一般常識について試験を行う必要はあるかと思います。それをどこまで合否につなげるかというのは、その子ども一人の人生を考えると、とても大きな分かれ道だと思っています。
- 野田委員 私立文系と私立理科系の大学は3教科ずつで、科目が違うじゃない。それと同じように、ここだってその3教科でそれだけでいいような気がするけどね。ある程度ものを計るものさえあれば、別にそれ以上の負担を求めなくてもよいと思います。

飯室委員 学校に入ってから卒業して、就職とかね、それが大事だと思うんですよね。その時代の時代によってこの学科が就職がいいとか、あると思うんですよね。そういう意味でやっぱり学生さんが入ってから卒業するまで、あるいは就職するまでのモチベーションを上げて、この学校は一生懸命勉強やっていますよという、そういうのは大事だと思うんですよね。その辺を何か良くPRして、そして就職もいい所に入っていますよというのが分かってくれば、山梨県の物づくりのプラスになると思うんですよね。ぜひそんな形でよろしくをお願いします。

長田委員 今の就職、出口の話なんですけれども、特別支援学校の場合ですね、出たあとに2年間学校がその子の行く末を時々見守るといようなシステムがあると思います。やはり定時制の子どもたちというのは出て、就職をどこかにしたとしても、そのあとちょっとどうしているのかなというように、あとのフォローを学校のほうできると、その進路の開拓にも繋がると思いますし、そういう視点で企業と係わっていただく。卒業して就職したあの子はどうですかね、と、2年間ぐらいフォローをしていただけることがもし可能なのであれば、特別支援学校はそれはできているので、やっていただくと、どちらにとっても有益なので、生徒本人にとってもそうですし、企業にとっても有益なのではないかなと思います。

【 了 知 】

(4) 巨摩高等学校のコースの名称変更について 〔説明〕新しい学校づくり推進室

野田委員 理数コースというのは1年の時から理数系に特化した教育課程はやっているんです

鈴木室長 やっております。

野田委員 それはもう2年次じゃあ追いつけない、編入しても。逆に入っていっても。普通科の子はそこへ入ったとしても追いつけない。

鈴木室長 普通科の中にも文系・理系というのがございますので、理系の子どもであれば追いつくことはできます。

野田委員 可能なんですね。もっとそういうのをいろいろ可能にしたらどうです。もっとやる。いいんじゃないのかなって気がします。僕らが高校の時、1年の時はみんな一緒に、2年になる時に理系、文系と分かれてというふうな。1年の時に入って、入ったけどやっぱり俺理系じゃないとか、俺文系入ったけれどやっぱり理系かなと思う子もいますので。そういうふうな選択の幅が広がればやり易いのではないかなと思うけれど。どうなんでしょう。

鈴木室長 そういうことは可能だと思います

野田委員 多分1年ぐらいの数学だったら、理数コースでなくても十分ついていけると思うんですよ。そうすると2年の時もしドロップアウトしたら、こっちから10人は受け入れられるよみたいなやり方をしてもいいんじゃないのかという気がします。

鈴木室長 そういうふうにはする予定でありますけれども、ただ理数コースの場合は理科とか数学、要は専門的な科目で20単位から25単位は取得しなければならないということもございまして、ちょっとその辺も含めて話をさせていただきたいと思います。

飯室委員 28年度は10人定員減ですよね。26年度は40人、39人。これはこの3月に卒業するわけですよね。この39人の進学状況はどうなんですか。

鈴木室長 平成27年度になりますけれども、国公立で30人ほど受けておりまして、そのうちの約半数が理数コースの卒業生です。

飯室委員 そういう実績があれば、本当は28人でもっと定員を10減るといのは何か問題があるんじゃないかと思うんですよね。

- 野田委員 ちよつとずれますけどその質問で。
白根高校に何かこういう科みたいなありますか。
- 鈴木室長 白根高校は文理コースがあります。
- 野田委員 地元で毎年白根は定員が減っているから、数年後には白根高校が廃校になるとかって話が出ているんだよね。
- 鈴木室長 学校適正規模というのがご承知のように決められていて、これから少子化が進んでいって、それを潜るような学校が出てくれば、今峡南地域で検討しているようなことをこっちも検討していかなくちゃなくなると思います。今のところは特に新整備構想に基づいてことを図って行って今は峡南地域が残っている状況です。すぐどのということはないですが、この後少子化がこの状況で続いていけば、白根に限らずほかの所も、クラスが減っている所もでございます。
- 飯室委員 名称に関しては、ここで決めなくて、もう少し何かいろいろ名称を考えて、そこから決めたらいいと思うんですね。理数創造コースなんて全くよく分からないような名称だから。子どもたちが入りたいような、勉強したいような、ちょっと何かおしゃれなコース名で。
- 鈴木室長 理数割りとか検討する中で、理数体験コースとか、いろんな名前が出ましたけども、学校が、本校はそういう名称にしたいということでございましたので。
- 教育長 学校から名前についてこういう要望を出してきたので
- 鈴木室長 創造という言葉を使っている学科コースがございませんので。

【 了 知 】

〔 教育長閉会宣言 〕